



第46号

# さらしな

## 友の会だより



2022・春



## 方言かるたに蘇った母の声

毎年9月に開かれる中学校の同級会。昭和35年に旧更級郡塩崎村立の中学校を卒業以来ずっと続いている同級会です。昨年は幹事だったので、喜寿の記念に方言かるた大会でもして盛り上げようかと、軽い乗りで春頃からかるた作りを始めました。

はあらか昔、暮らしの中でやりとりされていた言葉を実際に声に出して再現したら、きつとあつという間に少年少女時代に戻り、あつたかくて懐かしくついつい笑つちゃう、そんな場面を想像しながら、思いつくまませつせと書き留めました。けれど、原稿は仕上がったもののパソコンが全く使えない私にはそこから先に進むことができず、加えて新型コロナの影響で同級会は中止となり半分あきらめモードに。そんな時、思いがけず長男夫婦が救いの手を差し伸べてくれました。

「機械音痴だつて、いまさら気づいたの！ ここまでやって投げ出すのはもったいない」と。

インターネットで無地のかるたを購入し、ラベルシートにプリントしたものを一枚一枚カットして貼りつける。普通のかるたのような絵札は無し。そして何より、正しい？方言で読める読み手があつてこそ、ちょっと風変わりなかるたが完成しました。

せいぜい5セットあれば十分と思つていたのに、いざ出来上がつてみると欲が出て、小学生や地域の皆さん、

【全取り札を3ページに掲載】

ふれあいサロンなどで楽しめたらいいなと考えるようになりました。先日小学生とかるた会をして感じたことは、絵がなくてもスイスイ取つて結構楽しそうでしたこと。そして意外だったのは、読んで自分の声で母の声が重なって聞こえた気がして、思わずうるうるとしてしまったこと。

「ぐるわのもんち でえじにしろよ」「まてえにたべなきや ばちあたるど」。口うるさく言われて育つた、はあらか昔の思い出が蘇ってきました。

(羽尾4区・野本洋子)



## 作って焼いて縄文土器展

更級小学校では、地域講師を招いて、自然活動や茶道、卓球などをする7つのクラブがあり、4年生から6年生が活動しています。さらしなの里歴史資料館では「縄文人クラブ」として活動しており、令和3年度は8名の児童が参加しました。

6月から10月まで計7回のクラブ活動のうち、前半3回で「でっかい勾玉づくり」を、後半4回で「土器づくり」をそれぞれ行いました。ここでは土器づくりの活動を紹介します。

使う粘土は一人1.5キログラム



は粘土づくりからやるのがいいのでしようけど、クラブ活動の回数や時間が限られますので、事前に練り込んだ粘土を使用しました。

最初はなかなか形にすることができず、何度もつくり直していた子もいましたが、そのうちコツをつかんでくると徐々に形になってきて、縄や棒、竹などの道具で自由に文様を描き、11月3日に焼いて完成。11月19日〜12月12日まで、資料館で作品展を行いました。

(さらしなの里歴史資料館 学芸員 寺島孝典)

リレイ 里麗 エッセイ

## 思いがけない雑草対策

千曲市若宮 久保田真知子



ふわふわの綿とコキアの箒

雪が消えると草が目につき始める。私は草取りに無心になれて嫌いではないが、年々負担となってきた。なんとか除草剤を使わず減らしたいと、コキアと綿花を通路に植えてみた。

コキアは夏にトトロの茂みをつくり、秋には深紅に染まった。赤い箒づくりを思い立ち、色あせないうちに乾燥させた。種をしごいて取る作業は孫たちを夢中にさせ、かわいい魔女の箒に

仕上げた。この細いレトロな箒は友人からも好評で、来年の注文がくるほどだった。

綿花はオクラや酔芙蓉すいふうように似た淡黄色の花を咲かせ、夕方にはピンクに変わる妖艶さを醸し出していた。秋には次々に緑の丸い実(コットンボール)をつけ膨らんだ。そして実が割れ、真白な綿が顔を出す感動の瞬間が晩秋には訪れた。実を収穫し、2週間ほど乾燥させると、種を包んだふわふわの綿がザル一杯取れた。綿花は切り花やリース、ブローチなど手芸用として私のコロナ禍の冬ごもりを楽しませてくれた。来年は綿を紡いでみるのもおもしろいかなーと。

こうして発端は雑草対策で植えた草木が、新たな手仕事を生み、思いがけない発見や感動で、私の日常を潤してくれた。

さて、草取りは思惑どおり減っただろうか？ 昨年は例年の半分ほどの時間で済んだ。まずまず、成功！

**あ** あばな  
またあした  
あそぼうな

**お** おっぼけな  
こんぼつかせって  
はなしになんねえ

**こ** こうふけた  
もちなんか  
うんまかねえわ

**そ** そんなに  
ほめられちゃあ  
おしよしいわ

**に** にわとり  
ぎょうつて  
おこっつおつくる

**ま** まあまあ  
おせんしような  
ひとだいやあ

**よ** よけえな  
こんせつたら  
くらすけらど

**あ** あばけてて  
しょうじのほね  
おしよつちまった

**お** おちよべ  
たれても  
なんにもでねよ

**こ** こむせえ  
ざぶとんだが  
おすわんなして

**た** たらくくらたあ  
で こまった  
もんでやす

**ね** ねぐせく  
なつたのたべて  
はらこわすな

**ま** まえでの  
ほうからじよんに  
つめとくんな

**ら** らつちもねえ  
はなしばか  
してんじやねえ

**あ** あわてねで  
じよんじよんに  
やつてかす

**お** おしっこ  
まってくるから  
まってるや

**こ** こてつばや  
から せっこ  
いいだねすかい

**ち** ちよんこ  
づいて  
ころぶだねえど

**の** のくてえ  
いとにあがって  
もらいやしょ

**ま** まてゝに  
たへなきや  
ばちあたるど

**い** いまっと  
げえにせつときゃ  
よかつたな

**か** がくたくな  
とこは あんやん  
といっしよだな

**こ** こうもり  
もってけやれ  
あんきだど

**ち** ちようどっこ  
な どうぐも  
なんにもねえ

**は** はあらか  
ぶりでやす  
おたっしやかね

**み** みぐせえ  
かっこしてりや  
わらわれるど

**え** えぼつって  
およはんたべねで  
ねちまった

**か** かすばつたら  
ほとぼしとけ  
じきとれるわ

**し** しなくれね  
いとに  
つかつちまえ

**と** とろつびよう  
いそがしいつて  
ありやしね

**は** はいよゝ  
そうどこだ  
ありしね

**め** めしやきもち  
おこびれに  
どうでやすい

**お** おらちの  
まごはまあんで  
おじよこで

**き** きんなは  
うそこいて  
かんしな

**す** ずくだして  
ちつたあ  
うこけやれ

**な** なからに  
しとけぼ  
よわすど

**ひ** ひつちやら  
かつてるけんど  
およんなして

**も** もうらしい  
このぼこ  
わにてないてる

**お** おめさんは  
どつから  
おいんなしたね

**く** ぐるわの  
もんち  
でえじにしるよ

**せ** せつたか  
せわねか  
せつてみな

**な** なつちよも  
うんまくいけぼ  
いいだがない

**ひ** ひるうも  
ねえこんぼつか  
してるだねえ

**や** やだくて  
ぼこみてえに  
ぞせてるし

**お** おてしよ  
ごまいばか  
だしとくんな

**け** げくもねえ  
そんなこん  
やめとけや

**せ** せんどなは  
ふんとに  
ありがとごわした

**な** なまじつか  
よもてえつて  
ねえどい

**ひ** ひつちや  
ばけた もんべ  
つきあてねえと

**や** やつたら  
べちやるな  
もつてねえだんか

「やらしな方言かるた」野本洋子さん作



# 更級小で 縄文集会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域をあげて行われている縄文まつりが昨年も中止となりましたが、更級小学校では、まつりが例年行われる時期の10月20日(水)、体育館において縄文まつり集会を行いました。

## 校長先生「まつりは命の学習」

校長先生からは「1年中食べ物を探して飢えをしのぎ、自然災害とも闘いながら、生き抜くためにさまざまなき知恵を絞っていた縄文の人々は、1日1日を一生懸命に生きて命を繋いでいった人々だったと思います。生活に必要なものを作り、自然のものを食べ、みんなの知恵を集め、協力



1、2年生の縄文生を着てのファッションショーに始まり、縄

文村の村長である豊城巖さんの縄文まつりの意義や思いなどについてのお話や豊穰儀礼、縄文太鼓、芸能村の発表など、縄文まつりの雰囲気を感じることができた集会となりました。当日は、各家庭1名という制限付きでしたが、保護者の方々にも参加していただきました。

し合う。縄文まつりは、生きていくこと、命の学習だと思えます。コロナによって世界中が命の大切さ、健康であることのありがたさを感じている今だからこそ、縄文まつり集会ができて本当に良かったと思います。縄文まつりは地域の方々と共にまつりを作り上げるとても大切な経験です。来年はぜひ縄文パークで地域の皆さんと一緒に縄文まつりをやりたいと思います。」

(更級小学校)



この4月からさらしなの里歴史資料館館長を務めております吉池伸光です。



さらしなの里友の会では、文化遺産継承のため、地域の歴史発掘活動などを実施していると聞きしました。また会員の皆さま方には、日頃より当資料館および古代体験パークの管理運営にご協力をいただき深く感謝申し上げます。申し上げます。本年度も暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

**編集後記** 野本洋子さんがご自宅で、子どもたちと「さらしな方言かるた」をする場に同席しました。新聞社の記者もいて、子どもたちは緊張していました。野本さんが方言の意味をやさしく説明していると、なかなか札を取れない子が機嫌を悪くするなど、子どもらしい場面も出てきました。60歳の身でも分からない方言が多いのだから、子どもには…と思いましたが、「おばあちゃんが言ってるの聞いたことある」という子もいました▽ゲラを渡しに久保田真知子さんのお宅を訪ねました。春本番。花や植物で飾られた、見事なエントランスとお庭でした。